

シンポジウム 11

日本海沿岸地方の気候について

西山勝暢*

1. はじめに

日本海沿岸地方の日照時間と降水量について、平年値（1961-1990）（気象庁，1991）から述べ、日本海の海面水温との関係について考察してみる。

2. 日照時間

日本気候図（気象庁，1991）による年間日照時間を図1に示す。年間日照時間が2000時間を超えるのは北海道の十勝平野，本州中部の松本・甲府盆地，濃尾平野，東海・高知県・宮崎県の沿岸地域，塩屋埼・石廊埼・大王埼・潮岬の各岬付近それに瀬戸内海沿岸である。残念ながら日本海側には2000時間以上はみられない。そして年間日照時間が1500時間以下は黒く塗りつぶしてあるが，北海道と青森県の日

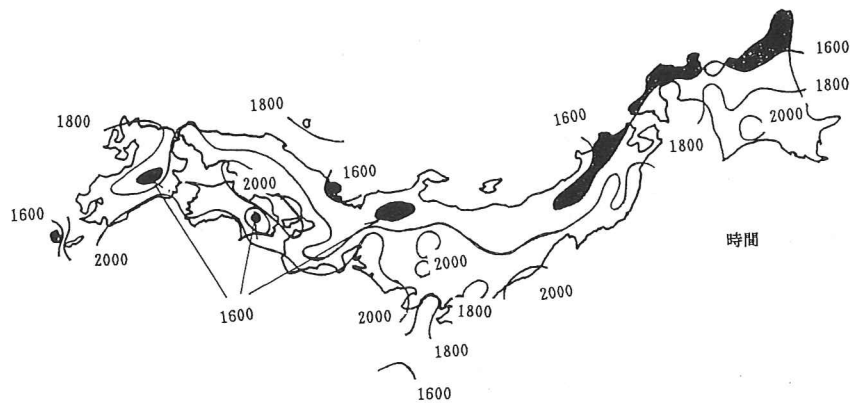


図1 年間日照時間の平年値（気象庁，1993）

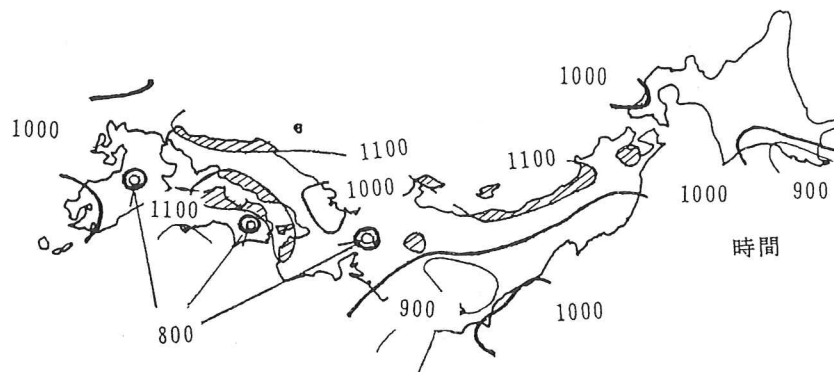


図2 4～9月の暖候期の日照時間

1999年1月4日受領

*気象庁気候・海洋気象部

本海沿岸，奥羽山脈の日本海側，丹後半島付近，白山・四国剣山・九州山地，八丈島・屋久島それに図にはみられないが奄美大島・西表島の島々である。

図2は4月から9月の暖候期6か月の日照時間を示したもので，1100時間以上の所に斜線を施してある。青森市，秋田・山形・新潟県の沿岸部，佐渡島，松本市，能登半島，隠岐島，山陰西部，瀬戸内海沿岸，それに足摺岬がこれにあたる。日照時間が800時間以下の所は伊吹山，剣山，阿蘇山で，舞鶴付近では1000時間と少ない。暖候期における日照時間は日本海沿岸地方では瀬戸内海地方と同じくらいで，日本全国で多い方にあたる。ちなみにほぼ同じ緯度にある秋田，盛岡，宮古の年間日照時間は各々1642時間，1815時間，1936時間である。暖候期に限ると各々1101時間，999時間，979時間で年間の67%，55%，51%を占めている。

図3～5に示す。図3は稚内から新潟までに相川・輪島・西郷を加えた。これらの官署では季節変化は小さく，輪島を除けば年降水量は2000mm以下で，西郷を除けば2～6月は少なく，梅雨のない北海道の寿都までは7月でも少ない。図4は高田から浜田までのもので，高田から敦賀までは12月と1月に多く，冬に著しく降水量が多い特徴を示している。そのほか梅雨期の6・7月と台風時期の9月に多い特徴も出ている。豊岡から浜田までは豊岡と鳥取ではまだ冬の降水量の多い名残はみられるが，6・7月と9月に多い。舞鶴は6～9月に多いが冬をはじめそのほかは少ない。図5は萩，下関，福岡，厳原それに参考として東京・大阪を示す。これらは概して暖候期に多く，寒候期に少ない傾向にある。

12月と1月の降水量に注目すると図4の高田から敦賀までは本州が折れ曲がる所にあたるが著しく多く，ほとんどが降雪である。そして12月と1月の降

3. 降水量

日本海沿岸にある気象官署の降水量の季節変化を

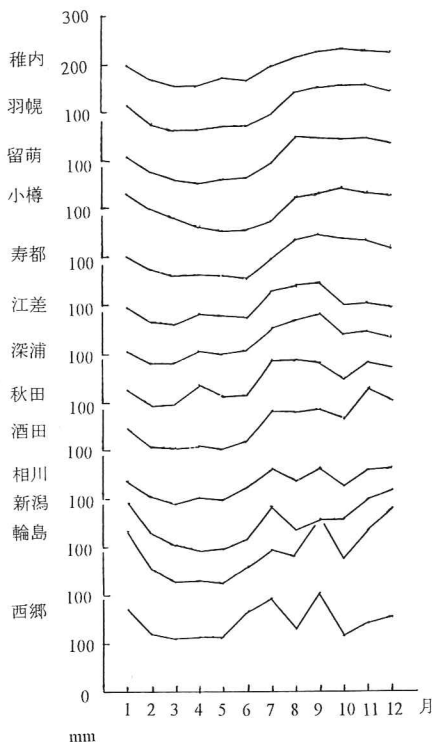


図3 日本海沿岸地方の月平均降水量の年変化（稚内から新潟他）

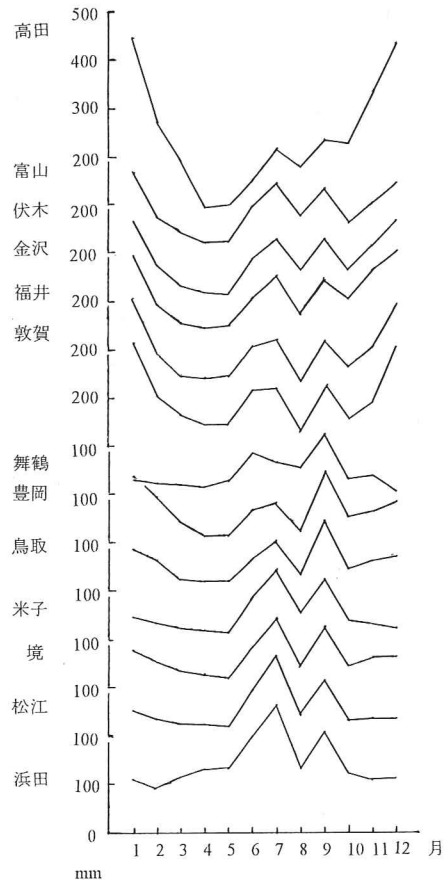


図4 日本海沿岸地方の月平均降水量の年変化（高田から浜田）

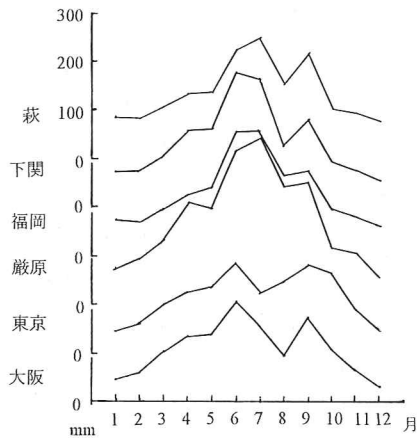


図5 日本海沿岸地方の月平均降水量の変化（萩から厳原他）

水量はほぼ同じである。これらより北の図3に示した本州の深浦から輪島までは12月の方が1月よりいくぶん多く、図4の豊岡から境までの南では12月の方が1月よりいくぶん少ない。

4. おわりに

日本海側の日照時間は舞鶴付近を除いた各地で4～9月の暖候期に限ると日本では多い方である。この時期は南中の太陽高度が大きく、日射量も大きい。従って農業などには効果が大きい。

舞鶴海洋気象台（1997）による日本海上での気温と水温の月平均値による差をみると、場所（海域）による差はなさそうである。このことから海面水温がある値（10℃くらい）より低くなると降水は減るとも考えられ、それが12月と1月の差にあらわれたものと思う。